

# 令和5年度中学校武道授業(空手道)指導法研究事業



研究協議の様子

令和5年度中学校武道授業(空手道)指導法研究事業(主催=日本武道館・全日本空手道連盟・日本武道協議会、後援=スポーツ庁)は、5月13日、研究者8名(内1名はオンライン参加)、研究協力者5名、連盟事務局3名の計16名が出席して、日本武道館大会議室にて実施された。

本事業は中学校保健体育科における武道授業の充実へ向け、教育効果の上がる指導計画、指導内容、指導法、評価等について研究討議するもので、今回は8月実施予定の第14回全国空手道指導者研修会と、令和5年度学校武道推進事業について検討・協議された。

開講式では、高橋昇<sup>たかはしのぼる</sup>公益財団法人全日本空手道連盟事務局長と和田健<sup>わだたけし</sup>公益財団法人日本武道館振興課長による主催者挨拶の後、研究者を代表して、小山正辰<sup>こやまさとし</sup>研究者が挨拶を述べた。

開講式後、研究協議(1)「全国指導者研修会の実施内容について」では、事務局から暫定の講習内容と全体構成の説明が行われた後、研究者・研究協力者から昨年度の反省や今年度に向けての改善案や講習内容について協議・発表があった。

研究協議の中で井下佳織<sup>いのしたかおり</sup>研究者は「昨年模擬授業を展開した際に、技術紹介までの導入部に時間がかかり実際に学習する時間が足りなくなってしまったので、時間管理が課題である。また、講師が空手の形などの技術面を一方的に教えて終わりにするのではなく、生徒が主体的に学ぶ姿勢に繋がられるよう工夫していきたい」と述べた。

また、日野一男<sup>ひのかずお</sup>研究者は、最近学校現場で熱中症が増加していることや、熱中症による後遺症を負った生徒の事例に触れ、「講習の中で熱中症を絶対に起こさないように伝えたい」と、その対策の必要性を訴えた。

休憩を挟み、研究協議(2)「令和5年度学校武道推進事業について」に移り、連盟事務局より、令和5年度における新規事業の企画書案と「特別支援学校・学級への取り組み」について概要説明があり、事業の実施方法や参加対象者、運営方法について協議された。

「特別支援学校・学級への取り組み」では、昨年指導書を作成して注力してきた知的障害のみならず、さまざまな障害に対応した指導法について協議され、高橋事務局長から「全日本空手道連盟もパラスポーツ協会への登録が完了し、障害のある生徒への指導法について情報が入ってきているので、それを特別支援学校に共有していきたい」との発言があった。

閉講式では、研究者代表の小山研究者の講評に続き、日下修次<sup>くさかしゅうじ</sup>全日本空手道連盟顧問、和田健日本武道館振興課長が主催者挨拶を述べ、予定していた内容をすべて終え、閉会となった。

